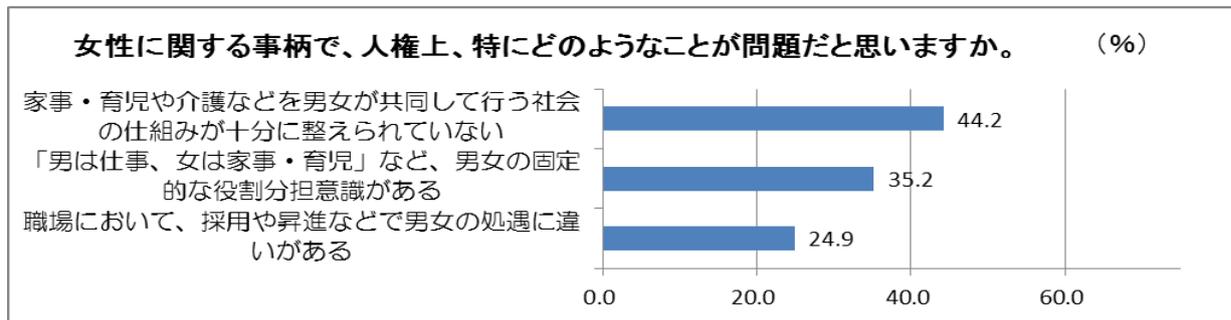


女性の社会進出について

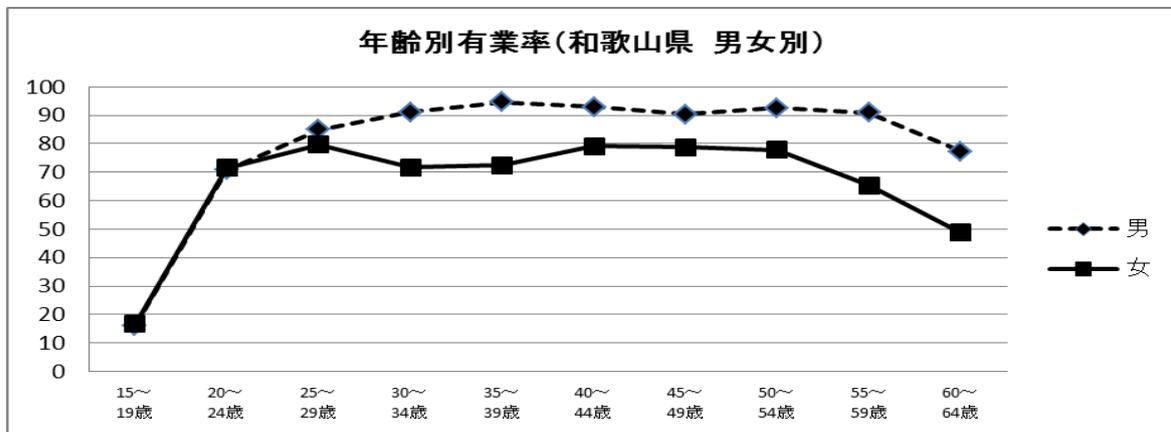
社会全体で女性の活躍の動きが拡大する一方、いまだ、「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な性別役割分担意識が残る現状があります。

平成30年に和歌山県が実施した人権に関する県民意識調査においても、女性に関する事柄で、人権上、問題なこととして「家事・育児や介護などを男女が共同で行う社会の仕組みが十分に整えられていない」「『男は仕事、女は家事・育児』など、男女の固定的な役割分担意識がある」と答えた方の割合が高いとの結果がでています。



※平成30年度人権に関する県民意識調査（和歌山県）

また、近年、女性の有業率は上昇していますが、結婚や出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆる「M字カーブ」を描くことが知られています。 ※有業率…仕事をしている人の割合



※平成29年就業構造基本調査（総務省）

チェック

女性の社会進出が進む今日でも、家事や育児、介護等の家庭生活における役割の多くは、依然として女性により担っていますが、男女双方が担うべきであるという認識が重要です。

また、職場においても、女性が希望に応じてキャリアを継続できるよう、多様な働き方に向けた環境整備、男性の家事・育児への参加促進、企業における意識改革と理解の促進が重要です。

内容についてのお問い合わせは
和歌山県人権施策推進課まで ☎073-441-2566

